

博士(甲)論文審査及び最終試験結果報告書

2025年11月19日

人間環境科学研究科教授会 殿

論文審査及び最終試験委員

主査 庄山茂子印

副査 木田雅規印

副査 小崎智照

副査 安所内朗

論文審査及び最終試験の結果を下記のとおり報告します。

記

| | | |
|--|-------------------------------|-------|
| 専攻及び課程 | 学籍番号 | 氏名 |
| 人間環境科学研究科 人間環境科学専攻 | 21dhe003 | 中西真美子 |
| 審査論文題目 | 授乳と乳房ケアに適した 授乳服のデザインに関する研究 | |
| 論文審査及び 最終試験結果 | (合) 否 | |
| 審査基準項目別の審査結果 | | |
| 番号 | 審査基準項目 | 評価※ |
| 1 | 学術上の創意工夫・新規性 | A |
| 2 | 得られたデータの取扱いの適切さ | B |
| 3 | 先行研究の取扱いの適切さ | A |
| 4 | 論旨の明確性・一貫性 | B |
| 5 | 表現・表記法の適切さ | B |
| 6 | 構成の体系的性 | A |
| (※ 各項目の評価は、A(優)、B(良)、C(可)、D(否)の4段階で行う) | | |
| 博士論文提出資格取得日 | 2025年9月3日 | |
| 博士後期課程退学日 | 年 月 日 | |

論文審査及び最終試験結果の要旨

授乳中の母親は、頻回の授乳による睡眠不足や精神的ストレスでうつ病のリスクが高いとされている。助産師は乳房ケアを通じて母乳分泌を促し、産後ケアを担うが、褥婦（産後6～8週間までの期間の女性）の着衣によっては脱衣が必要であるため、羞恥心や体温低下への配慮が求められる。本研究は、産褥入院中の褥婦が授乳しやすく、助産師が乳房ケアがしやすい授乳服のデザインを明らかにすることを目的とした。

第2章では、助産師の視点から乳房ケアしやすい授乳服について検討した。福岡県内の5つの産科病棟のある医療施設に勤務する助産師を対象に授乳服について調査し、78名より回答を得た。提示した10種の授乳服の中で、乳房ケアしやすい授乳服は、ネグリジェ（全前開き）、パジャマ（全前開き）、パジャマ（浴衣式）の3種で、乳房ケアしにくい授乳服は、ネグリジェ（前開きなし）、パジャマ（前開きなし）、ネグリジェ（上部前開き）、ネグリジェ（授乳口あり）の4種であった。約87%の助産師は乳房ケアしにくい授乳服を着用した褥婦の乳房ケア経験があった。助産師が授乳服に重視する要素は、乳房の出しやすさ、着心地、肌ざわりの順に高く、助産師の約66%は乳房ケア時に授乳服の開胸部を必要とし、その約92%は20cm四方と25cm四方の大きさを求めていることを明らかにした。

第3章では、褥婦の視点から授乳しやすい授乳服について検討した。産褥入院中に着用する授乳服について助産師を対象にした調査と同一の医療施設で褥婦を対象に調査し、63名より回答を得た。褥婦が着用している授乳服は、ネグリジェ（全前開き）、パジャマ（全前開き）が多く、着用したい授乳服は、ネグリジェ（全前開き）、ネグリジェ（授乳口あり）であった。褥婦が授乳服に重視する要素は、乳房の出しやすさ、着心地、肌触り、着丈の順に高かった。乳房ケア時の乳房の出しやすさと授乳のしやすさで評価が高いのは、ネグリジェ（全前開き）、パジャマ（全前開き）、パジャマ（全前開き・授乳口あり）、パジャマ（浴衣式）であった。ネグリジェ（浴衣式）とネグリジェ（浴衣式・肩開き）の評価はネグリジェ（全前開き）より有意に低かったのは、下肢のはだけやすさの影響によるものと考察した。褥婦の約90%は授乳時に開胸部を必要とし、その約80%は15cm四方と20cm四方の大きさを求めていることを明らかにした。

第4章では、授乳服に関する助産師と褥婦を対象とした調査結果を統計的に比較分析した。加えて乳児の安全性に適した授乳服のデザインを検討した。授乳服に重視する要素は、助産師と褥婦は、乳房の出しやすさ、着心地、肌ざわりで共通していたが、褥婦はデザイン性、助産師は衛生や耐久性を重要視する違いがみられた。乳房ケア時の乳房の出しやすさと授乳のしやすさについて、助産師と褥婦ともネグリジェ（全前開き）、パジャマ（全前開き）、パジャマ（浴衣式）を高く評価した。開胸部を必要とする割合は褥婦のほうが高かったが、その大きさについては、助産師は褥婦より大きい25cm四方を選択した割合が高かった。これは、助産師は乳房を広範囲にケアするために十分な大きさを求め、褥婦は羞恥心から乳房を露出する最小限の大きさを望んだためと推察した。開胸部にもっとも適するタイプは、両群ともスナップを選択したが、乳児が誤飲する危険性があるため、埋め込みタイプが望まれると考察した。これらを踏まえ胸をヨークで切り替えて、縦にタックを入れ、そのタックにスナップで開胸部の大きさを調整できる全前開きのパジャマを提案した。

本論文は、サンプル画による主観評価で、乳房の大きさを褥婦に質問できなかった点などの限界はあるが、産褥期の母親の授乳支援と助産師による乳房ケアの質向上に資する研究である。特に、既存の授乳口のある授乳服の評価が低かったことから、今後の授乳服の製品企画への貢献が期待される。産後ケアの質向上は母親の心理的安定と育児継続意欲に直結し、さらに授乳環境の整備は子育て支援の基盤であることから、本研究は安心して子どもを産み育てられる社会の実現に寄与する意義深い研究である。以上より、本論文は博士（人間環境科学）の学位授与に十分に値する。